

作成上の留意事項

所定の様式を用い、様式の改変はしないで下さい。

○様式 1（研究課題総括表）

A 4 用紙 1 枚で記載して下さい。

1. 「受付番号」について

応募書類を受理した際に記載する欄であり、空欄として下さい。

2. 「提案区分」について

以下の表を参考とし、該当する区分番号と区分名を記載して下さい。さらに、研究領域設定型研究に応募する場合にあつては領域番号を記載して下さい。領域番号については、2006年度の研究領域決定時（12月下旬予定）にホームページ等で発表しますので確認して記載して下さい。

区分番号	区 分 名	領域番号
1	全国領域設定型研究 一般型	研究領域決定時に提示
2	全国領域設定型研究 リスク管理型	研究領域決定時に提示
3	地方領域設定型研究	研究領域決定時に提示
4	地域競争型研究	空欄とする
5	広域ニーズ・シーズ対応型研究	空欄とする
6	現場連携支援実用化促進型研究	空欄とする
7	府省連携型研究	空欄とする
8	緊急課題即応型調査研究	課題設定時に提示

注：リスク管理型の2回目以降の公募に伴う研究領域の提示及び緊急課題即応型調査研究の実施については、別途ホームページ等でお知らせします。

また、地域活性化型研究及び府省連携型研究への応募であつて、研究総括者が若手研究者（2006年4月1日現在、40歳未満）の場合は「若手研究者」の欄に○をつけて下さい。

3. 「提案分野」について

別紙を参考にし、農業、畜産業、林業、水産業のいずれかを記載して下さい。

4. 「課題名」について

30文字以内厳守として下さい。

なお、課題名については、原則として研究期間終了時まで変更できないことに留意して下さい。

5. 「研究概要」について

200文字以内厳守で記載して下さい。なお、審査にあつてこのまま使用するの、正確に記載して下さい。

6. 「キーワード」について

別紙（P37～）を参考にし、該当する細目番号とキーワードを最も当てはまるものから順に(1)、(2)に記載して下さい。境界分野の研究テーマ等の場合には、上記3の「提案分野」とキーワード表の「分野」が必ずしも一致しなくてもかまいません。また、該当するものがない場合は、独自のキーワードを記載して下さい。

7. 「期別達成目標における位置づけ」について

「地域競争型研究」、「広域ニーズ・シーズ対応型研究」、「現場連携支援実用化促進型研究」、「府省連携型研究」に応募する場合は記入することとし、該当する大項目（かっこ書き番号）、中項目（片かっこ書きの番号）、事項（アルファベット大文字）及び研究の細目（アルファベット小文字）を記載して下さい。

（農林水産研究基本計画における期別達成目標については、農林水産技術会議HPを参照して下さい。URL：http://www.s.affrc.go.jp/docs/news/koubo/high_h18.htm）

8. 「地域再生計画における位置づけ」について

「現場連携支援実用化促進型研究」に応募する場合のみの記入とし、

- ① 「位置づけの有無」については、「地域再生法（平成17年法律第24号）」及び「地域再生基本方針（平成17年4月22日閣議決定）」に基づき地方公共団体が作成する地域再生計画において、本研究課題を位置づけることを予定していれば「有」と、なければ「無」と記入して下さい。
- ② 「地域再生計画の名称」については、本研究課題が位置づけられている場合のみ、その計画の名称（仮称でも可）を記載して下さい。

9. 「研究総括者」について

生年月日は西暦によることとし、2006年4月1日現在の年齢を記載して下さい。

10. 「共同機関」について

共同機関名を

- ① 都道府県、市町村、国公立試験研究機関
- ② 大学、大学共同利用機関
- ③ 独立行政法人、特殊法人、認可法人
- ④ 民間企業、公益法人、NPO法人、協同組合、農林漁業者

のセクター別に契約単位で記載して下さい。都道府県、大学、独立行政法人等の大組織の場合であって、個別の試験研究所や学部等が契約単位とならない場合には（ ）書きで試験研究所等名を記入してください。個別の試験研究所や学部のレベルで契約行為を行うことが可能かどうかは各機関の事務担当者に予め確認して下さい。

(記入例)

共同機関名	① 公立	※県が契約単位となる場合は、試験場名を括弧書きする。 ○○県（○○県××試験場・○○県××センター） ※個別試験場で契約可能な場合 ○○県××試験場、○○県××センター
	② 大学	※大学が契約単位となる場合は、学部名を括弧書きする。 ○○大学（農学部、工学部、××センター） ※学部で契約可能な場合 ○○大学農学部、○○大学工学部
	③ 独法	（独）○○機構（○○農業研究センター、○○研究所）

	④民間	〇〇〇〇株式会社、◎NPO法人〇〇会
		※農林漁業者の場合 畜産業 〇〇太郎、農業 〇〇栽培研究会

○様式2（研究課題概要図）

A4用紙1枚で作成し、必要に応じて用紙を横長に使用してもかまいません。

研究計画及び研究体制のイメージ、中課題間の関係等について、図表、ポンチ絵を用いて作成すること。また、白黒で印刷して提出して下さい。（課題評価には白黒で印刷したものを使用）

○様式3（研究課題内容）

A4用紙4枚以内とすること

1. 「1. 研究目的及び目標とする成果」について

社会的背景を踏まえた研究目的、目標とする成果及び期待される成果、特に地域活性化型研究については、地域への波及効果について記載して下さい。また、本研究課題における目標とする成果と期待される波及効果等については明確に書き分けて下さい。

[期別達成目標に貢献しうる研究目的]

農林水産研究基本計画の（付表）期別達成目標の研究の細目に当該計画の研究開発の方向が、どのように合致し、その目標が達成されれば、期別達成目標の推進を図る上で、どのように貢献するのかを記入して下さい。

（記入例）

近年、～～等から～～等の問題が生じており、こうした問題の解決が求められている。
（今後更なる地域の活性化を図るためには・・・が必要となっている。）

一方、〇〇等においては、～～等の取り組みがなされているが、～～等の理由により～～等には至っていない。

このため、～～の解決（改善）に必要な～～技術の開発、～～の解決（改善）に必要な～～技術の開発、これらを組み合わせた～～体系の確立を図る。

こうした取り組みにより、～～に加え、地域にとっての～～の効果が期待され、全体で～～程度の経済効果が期待される。

[期別達成目標に貢献しうる研究目的]

本計画の目的である～～技術の開発を行い、～～体系の確立を図ることは、研究の細目（〇〇〇）と合致するものである。

この新しい技術の開発により労働時間が〇〇割短縮でき、～～の被害を回避できることから、期別達成目標の〇〇安定生産支援システムの開発の推進に貢献するものである。

2. 「2. 既往の成果」について

研究に参画する研究機関においてこれまでに得られた既往成果を記載し、「3. 研究目的及び目標とする成果」を達成する上で、現状では研究がどの段階まで進んでいるのかを明確に示して下さい。

地域競争型研究については、地域固有の特産作物等地域資源又は地域の技術シーズ、現場連携支援実用化促進型研究については、地方大学をはじめとする生産現場周辺の研究機関等の技術シーズ、府省連携型研究については、他省庁の事業の成果の活用（研究成果の概要と本研究での発展・展開内容）又は他分野の技術シーズをそれぞれ必ず記載して下さい

（記入例）

～～を応用して△△を解決するためには××や××に関する知見と××に関する技術開発が必要となるが、本グループでは今までに◇◇法の改良に取り組み、これを応用して××解明の基礎となる〇〇及び〇〇を明らかにするとともに〇〇の技術を既に開発している。

この結果を～～に用いることで～～の開発が可能であり、△△解決に不可欠な××が可能となる。

3. 「3. 研究計画・方法」について

研究課題を細分化した中課題毎に、又は中課題を更に細分化した小課題毎に具体的な研究内容、手法、初年度における研究目標、研究終了時の研究目標を記載して下さい。また、課題間の関係についても記載して下さい。

中課題順に（1）、（2）、・・・、小課題順に①、②、・・・と番号を付して下さい。

（「1. 研究目的及び目標とする成果」に対応した内容となるよう留意し、かつ「積算内訳」で要求している内容が読み取れるような内容として下さい。）

[コーディネート機能、実用化促進計画]

現場連携支援実用化促進型研究については、実用化を促進するに当たり、研究成果の普及・実用化への道筋を特に明確にするとともに、コーディネート機関が果たす役割について、具体的に記載して下さい。また、商品化・実用化を担当する共同研究機関名を必ず記入して下さい。

（記入例）

（1）〇〇〇における△△の確立

① 〇〇の解析

これまで、～に対し～に関する～がなかったため、新たに～についての手法を開発し、～法に基づき～の解析を行う。これにより、～を明らかにする。

まず、初年度においては、～を確立し、～を目標とする。

最終的には、～の解析結果を用いて～を明らかにする。

② 〇〇の開発

[コーディネート機能]

研究の開始にあたり～～を行い、研究体制の構築を図り、～～により研究成果の普及・実用化を推進するなど、研究計画が目標に向けて円滑に進行出来るよう関係機関間の連絡調整を行う。

[実用化促進計画]

共同研究により開発された〇〇技術を活用し、共同研究機関である〇〇会社が、高性能な〇〇装置を開発・商品化する。商品化した装置は、〇年以内に〇〇台普及が見込まれる（根拠も記載）。

4. 「4. 共同研究体制」について

「2. 既往の成果」及び本研究課題に参画する各研究機関の研究ポテンシャル（現場連携支援実用化促進型研究については、コーディネート機関の実績等を含む）を踏まえ、当該研究課題においての共同研究を実施する必要性、責任体制を記載すること。記載にあたっては、共同研究体制の効率性、効果が判断できる内容として下さい。

リスク管理型については行政との連携体制、広域ニーズ・シーズ対応型研究については複数地域の研究者間との共同研究体制（オープンラボに結集等）、現場連携支援実用化促進型研究については、コーディネート機関の参画のあり方やコーディネート機能の発揮手法についても記載して下さい。

研究期間を4～5年としたものについては、その理由についても記載して下さい。

（記入例）

〇〇がこれまで蓄積してきた～～という技術シーズを基に、（△△のオープンラボを活用し、）～～に関する高い知見（ノウハウ・研究蓄積）を有する△△が～～を分担し、～～に関する高い知見（ノウハウ・研究蓄積）を有する□□が～～を分担することにより、～～と～～に関する研究の加速化を図り、効率的かつ効果的な試験研究を実施する。

5. 「5. 研究課題の構成」について

研究課題の最小単位（中課題又は小課題）における研究期間を矢印を用いて図示して下さい。

（記入例）

研究項目	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度
(1) 〇〇における△△の確立					
① 〇〇の解析	←→				
② 〇〇の開発			←→		

[計画が3年間で終わらない理由]

（研究計画が4年又は5年計画場合のみ記入）

研究計画が3年を超える場合は、研究対象の性格上3年では終了し得ないなど、その具体的な理由を明確に記載して下さい。

6. 「6. 他省庁を含む他の競争的研究資金等の応募・受入状況」について

研究総括者及び研究分担者（共同機関における研究者）に関して、これまでの他の競争的資金制度、プロジェクト研究に関する委託・助成の実績の有無、及び現在の申請の有無について記載する。さらにこれらが該当する場合はその研究内容（制度名、研究課題名、実施期間、予算額、エフォート及びこれまでの研究成果）を記載する。研究総括者が、本事業以外の他の競争的資金制度及びプロジェクト研究に研究分担者として参画する場合も記載して下さい。

また、「⑥これまでの研究成果」においては、これまでに委託・助成の実績がある研究課題が今回応募する研究課題と関係がある場合、その研究成果を記載して下さい。

研究総括者名（所属機関）

（記入例）

〇〇費（〇〇省）、「・・・に関する研究」（1999－2004）

〇〇助成（〇〇省）、「・・・調査」（申請中）（2005－2007）

研究分担者（所属機関）

7. 「7. 研究グループとしてのこれまでの活動状況」について

研究課題を応募するにあたって、研究グループとしてのこれまでの活動状況（地域における産学官連携に関する研究会、検討会への参画、他機関との連携の取組等）について簡潔に記載して下さい。

8. 「8. 地域再生計画における位置付け」について

本研究課題を位置づけることを予定している地域再生計画に関して、下記の項目に係る具体的内容を記載するとともに、参考となる資料があれば、添付してください。

①地域再生計画の名称（仮称で可）

②地域再生計画の作成主体の名称（選定後に認定申請を予定している地方公共団体の名称を記載）

③地域再生計画の区域

④地域再生計画の目標（地域における社会的・経済的ニーズや解決すべき課題等について記載するとともに、本研究課題の実行による地域再生の定量的目標を設定するとともに、本研究課題の実施から地域再生の目標達成までの具体的経路について記載）

⑤地域の大学等との連携の方法（連携体制の具体的内容について記載）

○様式4（研究分担者一覧）

研究項目には中課題及び小課題名を記載し、研究分担者の氏名及び所属等を記載して下さい。その際、研究総括者には◎、中課題責任者には○、小課題責任者には△を氏名の前に記載すること。研究計画の遂行に関し名目的に名前を連ねるなど、実質的な責任を負わない者は、研究分担者として加えることができないので注意して下さい。

エフォート（研究専従率）は、当該研究者の全仕事時間に占める本研究課題に充てる時間の割合（小数点以下を四捨五入した整数値）を以下の例のとおり記入すること。一人の研究者が複数の研究項目を担当する場合は、最初に記載する箇所に数値を記載しその後は「前出」として下さい。

(記入例)

研究項目	氏名	所属機関・部署・役職名	功績(%)
研究総括者	◎ 農林太郎	〇〇大学農学部教授	30
(1) 〇〇における△△の確立			
① 〇〇の解析	○ 農林太郎 林業花子	〇〇大学農学部教授 (株) △△研究開発部課長	前出 15
② 〇〇の開発	△ 水産次郎 林業花子	〇〇県農業試験場△部 (株) △△研究開発部課長	20 前出
(2) 〇〇の試作	○ 水産次郎	〇〇県農業試験場△部	前出

○様式5 (研究費の見込額一覧)

中核機関及び共同機関ごとに研究終了年度までの研究予算の見込額及びその内訳を記載して下さい。

中核機関にあっては、国からの委託費として①直接経費、②間接経費、③試験研究調査委託費(消費税を含む。)を、共同機関については、中核機関からの試験研究調査委託費として①直接経費、②間接経費(消費税を含む。)を計上できます。

1) 直接経費

機械整備費及び備品費、雑役務費については、その品名・仕様、数量、単価、金額を記載して下さい。

2) 間接経費

間接経費については、直接経費の10%に相当する額以上を必ず計上することとし、直接経費の30%に当たる額を上限として計上して下さい。見込額については研究機関の経理部門等と予めよく相談の上計上して下さい。(コーディネート機関も同様とする。)

3) 試験研究調査委託費

参画する全ての共同機関の研究費(直接経費・間接経費)を合計した金額を、中核機関の試験研究調査委託費金額と一致させて下さい。

○様式6 (研究者情報)

研究総括者の経歴について、「最終学歴」、「学位」、「主な職歴と研究内容」を記載して下さい。

(記入例)

研究総括者名	〇〇 〇〇
--------	-------

最終学歴	西暦〇〇年 〇〇大学〇〇学部卒業
学位	西暦〇〇年 博士号 (〇〇学) 取得 (〇〇大学)
主な職歴と研究内容	西暦〇〇年～〇〇年 〇〇大学〇〇学部助手 西暦〇〇年～〇〇年 〇〇大学〇〇学部 研究員 〇〇に関する研究に従事

注：「学位」は、学士・修士・博士のうち、各自最上位の学位を記載して下さい。

「主な職歴と研究内容」は、職歴とこれまでの研究内容や商品・栽培法・品種改良などの開発事例を記入して下さい。

また、「様式4の研究分担者の一覧」に記載した全ての研究者（研究総括者を含む）について、その順にそって主な研究論文、著書及び特許を記入例に従い記載して下さい。

記載にあたっては、研究者一人当たり近年の重要なものを、in pressのものから過去にさかのぼって、発表の順に最大5つまで記載し、本研究課題に関係の大きいものについては、冒頭に○印をつけて下さい。

雑誌の場合は、タイトル、著者名、学会誌名、巻(号)、ページ-ページ (西暦)

書籍の場合は、タイトル、著者名、出版社名、発行年 (西暦)

特許の場合は、特許名、特許番号、取得又は出願年月日 (西暦) の順に記載すること。

なお、民間企業・団体・農林漁業者については、申請課題の研究に関連する資格 (例：技術士、獣医師)、受賞歴を記載しても可。

注：論文・著書名の共著欄には全ての共著者を記載する。外国語論文の場合であっても、日本人の共著者については名前を日本語表記とすること。また、本人及び研究分担者にはアンダーラインを付すこと。他の研究分担者の欄で前出された論文には、冒頭に「前出」と記載して下さい。

(記入例)

氏名	学位	主な論文・著書・特許 (近年の重要なものを各自5件以内)
農林太郎 (研究総括者)	博士	<p><論文></p> <p>○「〇〇〇に関する研究」、<u>農林太郎</u>、<u>水産次郎</u>、畜産三郎、〇〇学会誌、1(1)、20-30(2004)</p> <p>○「Development of novel analysis method for 〇〇〇〇」<u>農林太郎</u>、<u>Gaikokujin A.</u>、<u>林業次郎</u>、<u>Gaikokujin B.</u> <i>Journal of Agriculture</i>, 1(1) 20-30(2004)</p> <p>※外国語論文であっても、日本人の共著者の氏名は日本語表記とすること。</p> <p><著書></p> <p>「〇〇の現状」、<u>農林太郎</u>、〇〇出版社 (2004)</p> <p><特許></p> <p>「〇〇〇の製造方法」、特願 2004-12345、出願 2004年1月10日</p>
林業花子	修士	特になし
水産次郎	学士	<論文>

		前出 ○「○○○に関する研究」、農林太郎、 <u>水産次郎</u> 、畜産三郎、○○学会誌、1(1)、20-30(2004)

○様式 7 (機関概要)

本研究課題に参画する中核機関及びすべての共同機関について、記入例を参考に、契約単位で記載して下さい。

各項目には応募時点のものを記入することとしますが、今後の機関名の変更や市町村合併等による所在地の変更、代表者の変更等が既に決まっているものがあれば、その変更時期及び内容を明記して下さい。

また、電話番号、FAX 番号及び E-mail アドレスは半角文字で記載して下さい。

1. 中核機関名及び共同機関名について

都道府県、大学、独立行政法人等の大組織の場合で、個別の試験研究所や大学院研究科等が契約単位とならない場合には () 書きで試験研究所等名を記入する。個別の試験研究所や大学院研究科等を契約単位として、契約行為を行うことが可能かどうかは各機関の事務担当者に予め確認しておいて下さい。

2. 経理事務担当者について

都道府県が中核機関となる場合は、予算措置が可能であり、委託契約の締結がいつから可能か明記するとともに、担当者の確認印を押印して下さい。

3. 代表者名及び所在地について

機関名の契約単位と対応させて下さい。

4. 業務概要について

本研究課題を実施するにあたってのこれまでの実績、研究施設の整備状況等、本研究課題を実施する機関として適切であるかどうか判断できる内容として下さい。

5. 資本金について

民間企業、農業法人及び公益法人のみ記入し、公益法人にあっては、基本財産を記入して下さい。

6. 従業員数については、民間企業、農業法人のみ記入して下さい。

(記入例)	
中核機関名 共同機関名	○○県 (農業試験場・畜産試験場) ○○大学 (農学部、工学部、○○研究センター) (独)○○機構 (○○農業研究センター、○○研究所)
代表者名	○○県知事 ○○ ○○
経理事務担	氏名：○○

当者	所属部署：〇〇部〇〇課長 勤務先：〒 123-5678 住所 〇〇県〇〇市〇〇町〇〇-〇〇 電話番号：〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇〇 Fax 番号：〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇〇 E-mail アドレス：〇〇〇@〇〇〇. 〇〇. jp		
所在地	〒 123-4567 住所 〇〇県〇〇市〇〇 1 2 3 - 4 電話番号：〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇〇		
業務概要	〇〇研究所は、〇〇を目的として〇〇の研究を実施している機関であり、〇〇等の研究施設を有している。当研究所では、これまで、〇〇研究について〇〇など多くの知見が蓄積されている。		
資本金		従業員数	

○補足資料

民間企業、公益法人、NPO法人、協同組合が中核機関又は共同機関として参画している場合には、①又は②の該当するものを補足資料として下さい。この場合、決算報告書（連結決算でよい）には、貸借対照表、損益計算書を含めて下さい。

①民間企業の場合

経歴書（経歴が確認できる会社案内等も可）
 最新の決算（営業）報告書（又はそれに準じるもの）

②公益法人、NPO法人又は協同組合の場合

定款又は寄付行為
 最新の決算（営業）報告書1年分（又はそれに準じるもの）

(別紙)

分野	細目	細目番号	キーワード
農業	育種学	101	植物育種・遺伝、育種理論、遺伝資源、植物分子育種、DNAマーカー
	作物学・雑草学	102	食用作物、工芸作物、飼料作物、栽培、雑草、野生植物資源
	園芸学・造園学	103	果樹、野菜、花卉、園芸利用、施設利用、造園、景観
	植物病理学	104	病態、感染生理、宿主認識、ウイルス、毒素、遺伝子、病害防除、病害抵抗性
	応用昆虫学	105	応用昆虫、応用動物、昆虫利用、昆虫病理、養蚕・蚕糸、害虫防除
	植物栄養学・土壌学	106	植物成長・生理、栄養代謝、代謝調節、土壌分類、土壌物理、土壌化学、土壌生物、土壌環境、肥料
	応用微生物学	107	微生物学、発酵生産、微生物分類、微生物遺伝・育種、微生物代謝、微生物機能、微生物利用学、環境微生物、抗生物質生産、微生物生態学、微生物制御学
	応用生物化学	108	動物生化学、植物生化学、酵素利用学、細胞培養、組織培養、遺伝子工学、生物工学、代謝工学、物質生産、細胞応答、情報伝達、微量元素
	生物生産化学・生物有機化学	109	生物活性物質、細胞機能調節物質、農業科学、植物成長調節物質、情報分子、生合成、天然物化学、生物無機化学、物理化学、分析化学、有機化学
	食品科学	110	食品化学、食糧化学、食品生化学、食品物理学、食品工学、食品機能学、食品保蔵学、食品製造学、栄養化学、栄養生化学、食品安全性
	農業経済学	111	農業経営、農業政策、農業経済、農業金融、農業会計、農業史、農業地理、国際農業、農業地域計画、農村社会
	農業土木学・農村計画学	112	水理、水文、土壌物理、土質力学、応用力学、施設材料・施行、灌漑排水、農地整備、農村計画、測量、情報処理
	農業環境工学	113	農業生産環境、生物環境変動予測・制御、生物環境調節、生物工場、閉鎖系生物生産システム、生体計測、生物環境情報・リモートセンシング、農業情報、農作業システム、農作業情報、農業労働科学、生産・流通施設、自然エネルギー、生物生産機械、ポストハーベスト工学、バイオプロセッシング
	農業情報工学	114	画像処理・画像認識、非破壊計測、インターネット応用、バイオインフォマティクス、コンピュータシミュレーション、コンピュータネットワーク、知識処理、バイオメカトロニクス、バイオロボティクス、バイオセンシング、GPS/GIS、精密農業
環境農学	115	環境分析、環境汚染、環境修復、環境浄化、水域汚染、資源循環システム、バイオマス、遺伝子資源、生物環境、資源環境バランス、地域農学	
応用分子細胞生物学	116	遺伝子・染色体工学、タンパク質・糖鎖工学、代謝工学、オルガネラ工学、細胞工学、発生・分化制御、細胞間相互作用、分子間相互作用、バイオセンサー、細胞機能、分子情報、機能分子設計	

分野	細目	細目番号	キーワード
畜産業	畜産学・草地学	201	草地生態、草地利用、草地管理・保全、畜産物利用、畜産バイオマス、家畜福祉、野生動物保全、家畜生産システム、飼料、飼養、家畜管理
	応用動物科学	202	育種、繁殖、生産機能制御、発生工学、クローン家畜、生物製剤、生体利用
	基礎獣医学・基礎畜産学	203	遺伝、発生、生理、形態、行動、生態、薬理、生体情報、寄生体生物
	応用獣医学	204	家畜衛生、獣医公衆衛生、毒性学、疾病予防・制御、野生動物、動物福祉、人畜共通感染症
	臨床獣医学	205	内科、外科、臨床繁殖・産科、診断、検査、治療、予後、病理・病態
林業	林学・森林工学	301	材木育種、森林生産、森林生態・保護・保全、森林生物、森林管理・政策、森林風致、森林利用、林業経営経済、緑化・環境林、治山・砂防、崩壊・地すべり・土石流、水資源涵養・水質
	林産科学・木質工学	302	組織構造・材形成、材質・物性、パルプ・紙、リグニン、抽出成分・微量成分、化学加工、保存・木質文化、乾燥・機械加工、接着・木質材料、強度・木質構造、居住性・感性、キノコ、木質バイオマス
水産業	水産学一般	401	漁業、漁具・漁法、魚場造成、魚海況、音響・計測、分類、発生、形態、生理、生態、資源・資源管理、増養殖、水産経営経済、遺伝・育種、魚病、水圏環境・保全、海藻、プランクトン、微生物、ベントス
	水産化学	402	タンパク質、脂質、糖質、酵素、エキス成分、ビタミン、色素、生物活性物質、食品加工、鮮度保持、食品衛生、微生物、生物工学
複合領域	化学物質影響科学	501	トキシコロジー、人体有害物質、内分泌かく乱物質、環境動態学
	影響評価	502	微量化学物質汚染評価、健康影響評価、生態系影響評価、農薬安全性評価、影響評価手法、調査計画
	社会システム、安全システム	503	政策シミュレーション、安全システム、危機管理、リスク管理、安全情報・情報伝達、品質管理、植物防疫